

令和5年度移動教育委員会 意見交換会 発言要旨
(御前崎市立浜岡中学校)

開催日時：令和5年7月13日（木）10時～12時

場 所：御前崎市立浜岡中学校

参 加 者：御前崎市立浜岡中学校職員、御前崎市教育委員会、静岡県教育委員 など

1 学校概要説明

(御前崎市立浜岡中学校 鈴木校長)

- 県内公立小中学校では唯一だと思いが、校舎の中に災害用備蓄用の自動販売機を設置している。生徒が日常的な防災意識や、自分たちで決めたルールを自分たちで守る自治の意識、金銭管理や体調管理などを身に付けることをねらいとしており、生徒を信じて任せる取組の一環である。また、生徒が内容やデザインを考えた「浜中自販機ルール」の運用も始めている。
- 本校の良さをさらに発揮させるために必要な資質・能力として、「主体性」「忍耐力」「コミュニケーション力」「郷土愛」の4つを身に付けさせたいと考えている。「粘り強く、たくましい生徒」を重点目標とし、予測困難な社会を生き抜くため、困難な課題も粘り強く考え、仲間と協働して問題を解決しようとするたくましい生徒を育てる教育活動を進めている。また、「光り輝く学校」を学校教育目標に掲げており、学校づくりの主役である生徒一人一人の良さが光り輝く学校を創りたい。
- 新校舎は、令和3年3月6日に竣工式を迎えた。総工費は約40億円で、浜岡地区のシンボルとして「未来へ～夢と希望が輝く学校」をスローガンに建てられた学校である。全校生徒は530人で、通常級が各学年5クラス、特別支援学級が5クラスある。教職員は、県費負担教職員が43名、市費負担教職員が8名、合計51人のスタッフで生徒をお預かりしている。教職員の平均年齢は38.3歳で、昨年度より1歳若くなっており、若い教職員がエネルギーを持って動かしている学校である。
- 御前崎市では、平成26年から「スクラム御前崎」を基本方針として、公立の園、小学校、中学校、高校の縦の連携と、家庭、地域、産業界、行政の横の連携を組み合わせ、社会総がかりで「郷土を愛し、未来を創る人づくり」に取り組んでいる。
- 毎月10日に、市内の園、小学校、中学校、池新田高校で「スクラムグッドマナー運動」を行っている。この運動を続けてきたことで、挨拶や会釈がしっかりできるようになってきた。「えがおであいさつプラスワン」を合言葉に、学校が楽しいと思える子どもを増やそうと取り組んでいる。
- 縦の連携について、池新田幼稚園との連携では、津波避難訓練を浜岡中学校で実施しているほか、特別支援学級生徒の幼稚園への訪問授業を日常的に実施している。小学校との連携では、本校に進学する三つの小学校全てで、黙って掃除を行う「黙動清掃」を徹

底しているため、掃除が上手な生徒が育っている。また、小学校では昇降口の下駄箱に靴を揃えて入れる「かかとピン」も指導しているため、かかとを踏んで歩く生徒は1人もいない。話を聞く態度も指導が行き届いている。

- 主体的な学びとして、「誰一人見捨てない浜中スタイルの『学び合い』」という学習形態を取っている。「学び合い」とは、生徒同士が教え合うもので、教員は教えるのではなく活動目標を提示し、学習の環境を整えて評価する役目である。御前崎市では、授業改善テーマとして「子供自身が学びを実感する授業～教師が子供の学びをファシリテートする授業」を、全ての小中学校で目指している。
- 横の連携について、本校の特徴的な取組として、ライオンズクラブを中心とした地域の方に、1年間担任として1人あたり5～6人の生徒を受け持ち、面談や授業に参加していただく「地域担任制」に取り組んでいる。生徒は教員や保護者以外の大人に褒められる経験が少なく、外部の方が来校することで生徒の社会性も育っていくことがこの制度の良さである。
- 本校は、かつては生徒指導困難校であったことから外に開いてこなかった経緯があるが、地域の方とWin-Winの関係ができる取組を模索する中で、前任の校長がライオンズクラブに相談し、令和3年2月から地域担任の取組が始まった。学校としては、地域に根差した開かれた学校をつくりたいという思いがあり、ライオンズクラブとしても、社会貢献をしたいという思いがある。地域の方が学校に関わることにより、生徒が自分を見てくれる大人の存在に気づき、自分自身を見つめ直す機会が生まれる。この取組が、御前崎市民としての自覚の芽生えや自己肯定感の向上、郷土を愛し未来を作る生徒の育成につながるとともに、いずれは御前崎市に帰ってきて頑張りたいと考える生徒が育つことを願い、地域担任制を導入している。
- 浜岡中学校OBである（株）オミプランテックの社長による実験、JAとの畑づくり、中部電力によるエネルギー教育、総合的な学習における静岡新聞の方の講話や、市と連携したまちづくりを考える授業など、様々な取組を行っている。
- 学び合いの授業は、先生が学習課題を提示し、生徒が自由に席を動いて教え合う。1人で考える生徒もいれば、グループで取り組む生徒もいる。4月の授業開始日に、2、3年生が1年生と転入してきた教員に活動の様子を見せてくれるなど、生徒が学び合いに誇りを持っていることが感じられる。また、先日の生徒会長選挙でも5人が立候補し、全員が浜岡中学校をより良くしたいと演説してくれた。縦の連携と横の連携により、生徒の社会性が育っている。
- 学校経営においては、生徒が主役であり、生徒の学校づくりを大人が支えたいと考えている。大人が敷いたレールに乗せようとする、生徒の可能性を潰してしまう。これからの時代、いかにより良く生きるかを考え、生活できる生徒を育成するためには、教員による軌道修正も必要だが、生徒を信じて任せられる学校にしたい。
- 課題としては、不登校の出現率が県内や全国と比べて高く、県の生徒指導上の課題と同

様に、いじめや生徒間暴力などの問題も抱えている。教員の働き方改革に関しても、時間外勤務は平均で45時間を超えている。様々な課題があるが、縦の連携と横の連携を強化し、生徒とともに笑顔が溢れる光り輝く学校を作っていきたい。

2 施設及び授業見学

3 意見交換

教育長

- 素晴らしい学びの空間ができており、それを生徒が有効に活用して生き生きと学ぶ様子が見られた。校内に飾られている短冊に「浜岡中が日本一の学校になりますように」と書かれているものがあり、愛校心に驚いた。
- 若い教員がチャレンジできる風土ができると、浜岡中学校で教えてみたい、挑戦してみたいと考える教員が増えていくのではないか。
- 全ての靴が綺麗に揃っていたり、グループワークの機会が多いが、そこからこぼれ落ちてしまうような生徒に対して、どのように対応しているのかお聞きしたい。

浜岡中学校

- 2、3年生には不登校がいるが、1年生は欠席がほとんどない。2、3年生の不登校の生徒は、小学校から不登校が継続している。新規の不登校を出さないために、魅力ある学校づくりに努め、授業や行事を通じて全ての生徒を対象に居場所づくりや絆づくりに取り組んでいる。
- 支援の体制として、市の支援員が保健室に1人配置されているほか、教員免許を持ち、学習のフォローができる「しおかぜ先生」が、市費負担職員として1階のほっとルームに配置されている。また、登校していても教室に行くことができない生徒の学びを保障するため、今年からほっとルームでオンラインの授業を受けることができるようになった。これに対し、ますます教室に行きづらくなってしまっているのではないかと意見もあったが、そのようにフォローしていかないと遅れてしまう一方である。また、欠席した生徒や不登校の生徒も、自宅で授業を受けられることも積極的にアピールしている。また、市が設置している適応指導教室「サンルーム」でも、Wi-Fi環境が整備されており、学校の授業を見ることができる。市にも協力してもらい、こぼれ落ちそうな生徒を救う環境は整備できている。県が配置するスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーも、不登校傾向の子どもへの初期支援として有効に活用させていただいている。

教育委員

- 教室以外のスペースは余裕があるが、教室の中は混雑している印象を受けた。これは将来の少人数学級を見越したものなのか。
- 津波による原子力発電所における事故等の発生に備え、学校として何か対策しているか。
- スクラムスクール運営協議会の運営は簡単ではないと思うが、何か悩みや課題はあるか。

- 生徒の個性を伸ばす環境は整っているか。

浜岡中学校

- 教室は35人学級の想定で作っており、どの教室も目一杯生徒が入っている。元々教室は横に広い作りになっているが、狭く見える理由として、コロナの影響で席を少し離していることが考えられる。
- 原子力発電所に関する対策については、基本的に市のマニュアルで屋内退避と決まっている。安定ヨウ素剤は市で各家庭に配布しているため、学校では配布していない。
- 令和3年度までは、中学校区単位で園と学校を1つにまとめてコミュニティスクールとしており、この地域では、「早寝早起き朝ご飯」という基本的な生活習慣を共通の取組として実践していた。しかし、学校ごとの課題に対するアプローチが難しいことから、これまでの制度を踏襲しつつ、現在では学校単位で運営協議会、加えてその代表者が集まるスクラムスクール運営協議会の2つを設置している。本校の運営協議会においては、地域担任に協力をいただいているが、地域担任とのやりとりは基本的に校長と教頭で対応しているため、教員の負担は少ない。
- 本校には子どもの居場所になり得る場所が多くあり、自分たちで居場所を作ることができるメリットがある。また、教員には、教員が敷いたレールの上に乗せないよう伝えている。学び合いに力を入れ、生徒同士で教え合うことで、学校としてみんなで取り組む方向性を持って動いており、自由度は従来の学校と比べると高いと思う。

教育委員

- 地域担任制は素晴らしい取組だが、構成員がライオンズクラブに偏っているため、広げていく努力が必要ではないか。1つの広げ方として、学校に恩返しをしたいと考えている卒業生の保護者に声を掛けてはどうか。

浜岡中学校

- 地域担任は、全員がライオンズクラブの方ではなく、市役所の職員にも手伝っていただいている。更に多くの方に協力を広げていきたいと考えてはいるが、Win-Winの関係を築く必要があり、具体的なアクションには至っていない。ライオンズクラブは本校の卒業生も多いが、保護者の協力を得られるのであればありがたい。

教育委員

- 新しいことに慣れ、古いことを知らない生徒がこれから育っていくと、次の受け皿となる高校へのプレッシャーになる一方で、新しい環境で自分を主役に考える生徒が育っていくと感じた。
- シニア世代の地域担任を学校に巻き込んで活性化を図るだけでなく、学校施設を地域に向けてどのように開けた学びの場にしていくのか。何か計画があるのかお聞きしたい。

浜岡中学校

- 保護者や地域の方に対しては、学校は常に開いているため、いつでも見に来てくださいと伝えている。保護者が参観日以外で学校に来る機会は、昨年より増えていると感じる。

他にも、茶室のスペースで茶道の先生が教えてくれたり、池新田高校の部活動とコラボした企画の話が進んでいる。なるべく多くの方に、色々な形で施設を利用してもらいたいため、積極的にオープンにしている。

御前崎市教育委員会

- 御前崎市では、これからは地域連携に力を入れて取り組んでいく。中学校では地域担任制、小学校では学校ごとのスクラムスクール運営協議会やコミュニティスクールなどに取り組んでいるが、小学校の保護者は共働きが多いため、保護者の親世代の協力を得ながら地域連携を進めたい。徐々に協力関係ができつつあり、小学校での協力体制を盛んにすることで、中学校進学後も継続して関わりを持ってもらえると考えている。

教育委員

- 課外の時間における地域での教育は良いことだが、例えば授業の時間帯であれば学校教育課、学童であれば社会教育課というように、市での管轄が異なる場合は、連携が必要と考える。

浜岡中学校

- 施設の管理や指導にあたり、どのようにその壁を取るかは重要だと思う。

教育委員

- 大人が大勢で押しかけると、緊張したり早く帰ってほしいという気持ちが顔に出る生徒がいてもおかしくないが、そのような空気は感じられず、大人に見られることに慣れている印象を受けた。これは地域連携ができているおかげだと感じた。
- 教員の目が行き届きやすい空間だと感じた。音楽の授業でもヘルプを出すことができるシステム作りができており、ヘルプが出ると先生の札を付けた生徒がフォローに行くなど、言葉に出せなくても Chromebook を通じて意思表示ができ、それに対して教員や周りの生徒がフォローし合う関係を築くことができている。Chromebook が有効に活用されており、他の教科でも取り入れられる素晴らしい活用方法だと感じた。
- 教員が生徒に対してあまり口出しをせず、伸び伸びと育てているように感じた。施設が綺麗なことで、勉強以外のストレスが少ない。休み時間を過ごす場所がたくさんあり、1人になりたい生徒が1人になれる場所もある。全ての学校でできるものではなく、この学校の良さである。
- 地域担任については、ライオンズクラブ以外とも連携しているようだが、この地域に住む方やPTA、地域の自治会の方が学校に入ってくる機会があるのか。また、学校の様子を発信する窓口があるのか。学校の様子を地域に発信し、学校を知ってもらうことで地域も活性化していくため、保護者や自治会とのつながりがどの程度あるのか気になった。地域連携についても、これからの展望があればお聞きしたい。

浜岡中学校

- 職場体験の受入先を探すなど、市で任用するコミュニティスクールのディレクターが、学校と地域との結び付きに力を貸してくれている。また、学校支援地域本部というボラ

ンティアを市が募っており、学校が困ったときに地域の方に協力してもらう体制ができている。自治会についても、自治会の活動に生徒を参加させてもらったり、自治会長の代表がスクラムスクール運営協議会に参加したりと、連携の体制は整っている。

- 今後の地域担任制の見通しについては、学校に関わっていただく方、応援していただく方を増やしたいと願う一方で、学校を開くことによる防犯などの安全管理上の問題もあり、バランスを取りながら進めたい。地域担任に協力していただく人が増えれば、この活動もさらに良くなっていくものと考えている。
- 校舎の建替をきっかけに外部の方を多く招いたため、大人から見られることに抵抗がなく、慣れている生徒が多い。
- 昼の放送の時間に地区センターの長に来てもらい、防災に関する呼びかけをしてもらっている。学校を開くにあたり、学校でできることを具体的に伝えることで、地域の方も入りやすくなる。

教育委員

- 教員の時間外勤務は平均で 45 時間を超えているという説明があったが、働き方改革はどの程度進んでいるのか。

浜岡中学校

- コロナの影響で一時的に減ったが、現在は部活動も再開しているため、休日の時間外勤務は増えている。今年度の教育課程において工夫していることは、部活動の時間を短縮したり、会議も減らしている。これにより前年度と比べて減ってはいるものの、これ以上の対策は難しい。例えば不登校の生徒への支援であれば、放課後に保護者と連携をする必要があり、やはり人手が足りない。マンパワーが充実することで空き時間が生まれれば、授業の準備等ができる。色々取り組んではいるものの、なかなか減らない現状である。
- 時間外勤務の平均が 45 時間を超える状況は、どの学校現場でも共通していると思う。学校としては、市にタイムカードに関するシステム構築の予算化等をお願いしているが、現場サイドと行政サイドとでそれぞれできることがあるため、折り合いをつけながら進めていくことができるとよいと考える。